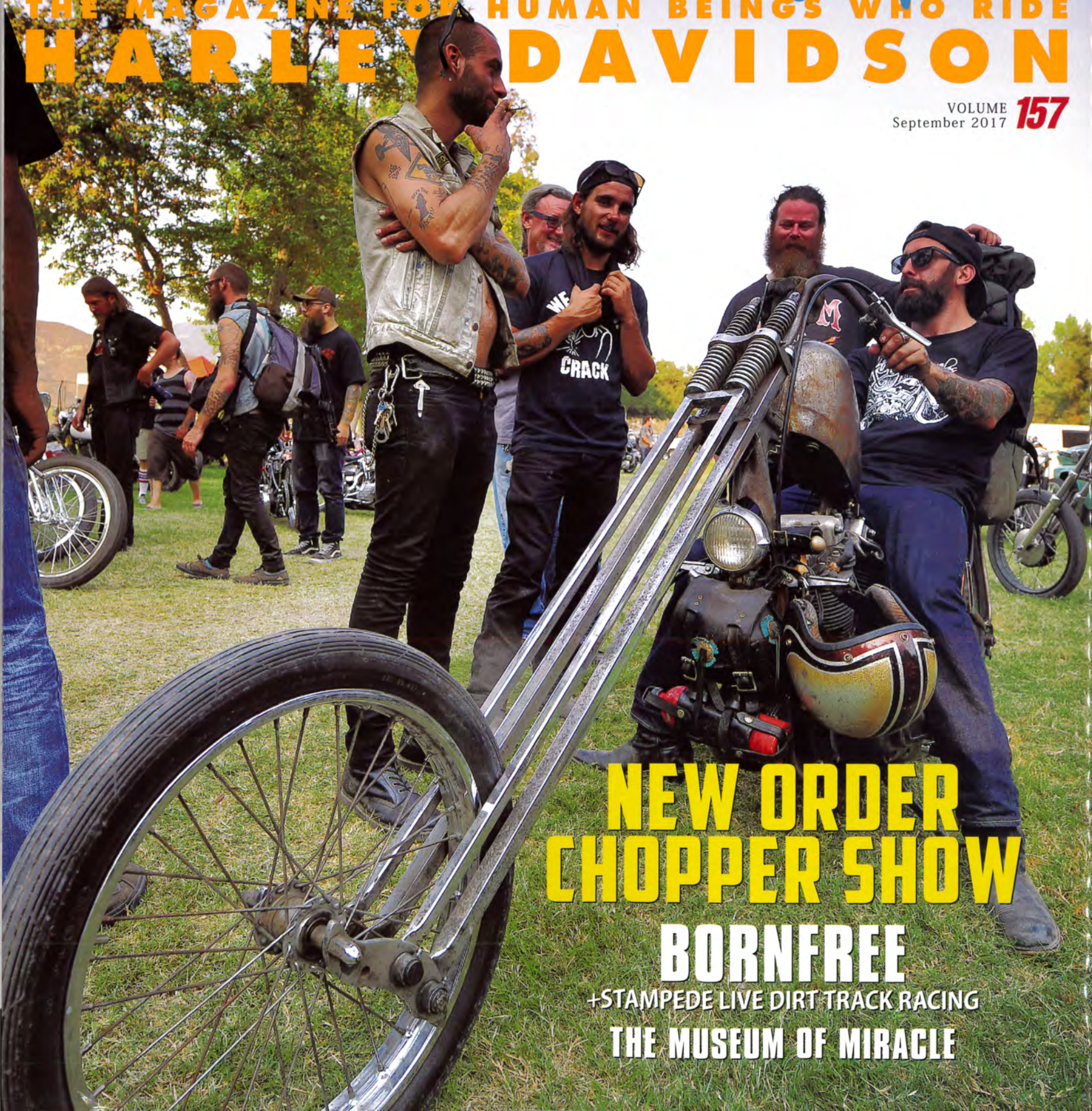


HOTBIKE

Japan

THE MAGAZINE FOR HUMAN BEINGS WHO RIDE
HARLEY DAVIDSON

VOLUME **157**
September 2017



**NEW ORDER
CHOPPER SHOW**

BORNFREE

+STAMPEDE LIVE DIRT TRACK RACING

THE MUSEUM OF MIRACLE



FD

モーターサイクルトライジャ

本郷5丁目4-18
110



トラスク製のターボチャージャーキットを
組んだ以外はCV0110ciのフルノ
マルというエンジンは後輪で160馬力
超を発揮。3000回転を超えてターボ
が効いてからの加速は圧巻。高速道
路でもスロットルを全開にできないか
もしれない。ターボパワー、恐るべし!

TRIJYA

見た目でも興奮、走っても興奮

これでもかとストレッチしたロングフォーク、奇想天外なユースクール、絢爛豪華なバガー。トライジャの生み出すオートバイには、ジャンルにとらわれない一種独特な世界観がある。

しかし同時に言えるのは、いずれのバイクも走りを犠牲にしていないこと。これまで走らせた何台ものバイクの中で、(もちろん大きさ長さゆえ取り回しの大変さはあるが、いざ走り出せば)乗りにくかったり扱いづらさを強く感じたものは皆無と言っている。それは今回走らせた2台のバガーでも同様。ポリウム感溢れるボディに思い切り寝かせたフロントフォークは、乗りにくいオーラをメラメラと漂わせるが、走り出してしまえば拍子抜けするほど普通。切れ込むクセもなく直進安定性も文句なし。普通のFLHを走らせるような感覚なのだ。

しかも俺が走らせたのはトラスク製ターボチャージャー付き。岡本代表の「これはもう……ちょっとすごい。絶対全開になんてならへん」という言葉に期待を膨らませての試乗となったが、撮影のため交通の流れに乗って3000回転以下で走らせる分には至って扱いやすい。だがしかし。撮影を終えてスロットルをワイド目に開けると表情は一変。シユコツというターボ音とともに壮絶な加速が始まった。これまでに味わったことのない加速フィール。河川敷の対面2車線道路の幅が一瞬にして教習所の一本橋のごとく狭まり、正直恐怖で全開はおろか半分ほど捻るのが精いっぱい。それでもはるか前方の車がワープするように近づいてくる。これまで俺が走らせたバイクの中で、体感加速は圧倒的にナンバー1だ。

